事業評価票

75	街路灯の省エネ照明への転換 （建設局道路管理部／一般会計）	事業開始	平成 20 年度
		事業終了予定	平成 25 年度

【局評価】

1 どのような経緯で事業を始めたか、何を目指すのか

○ 「10年後の東京」計画で掲げられた目標の一つである「世界で最も環境負荷の少ない都市の実現」に基づき、都道における既設街路灯の水銀ランプを省エネ照明へ転換し、街路灯の消費電力量を抑制するとともに、CO_2排出量の削減を図る。

○ 具体的には、平成27年度までに既設街路灯の水銀ランプ約73,600灯を省エネ照明に転換することで、消費電力量を約４割削減し、CO_2年間排出量を約1.6万ｔ（体積換算　東京ドーム約6.6杯分）削減する。

根拠法令等	

2 どのように取り組み、どのような成果があったか

○ 平成20年度から既設街路灯の水銀ランプを省エネ照明（セラミックメタルハライドランプ等）に交換することを開始した。

○ 22年度には、計画灯数9,200灯を上回る12,400灯を転換し、22年度末までに累計40,000灯の省エネ照明への転換が完了した。

○ 転換の完了に伴い、CO_2年間排出量を約8,600t削減するとともに、消費電力量の削減により、24年度街路灯光熱水費の見積額について、前年度に対して約1.8億円の経費節減を図った。

3 どのような課題や問題点があったか

○ 東日本大震災により、発電施設に甚大な被害が発生し、電力受給が逼迫した。

○ 都は、23年５月に「東京都電力対策緊急プログラム」を公表し、都関連施設での節電を徹底しており、道路管理者として、街路灯の省エネ照明への転換を更にスピードアップし、事業効果を早期に発現させることが求められている。

4 局として、事業をどうしていきたいか

拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他

○ 街路灯の省エネ照明への転換事業について、更なる早期完了に積極的に取り組むこととし、事業完了年度を既定計画の平成27年度から２年間前倒し、25年度に完了させる。

○ これにより、消費電力の削減及びCO_2年間排出量の削減について、目標の早期達成を実現し、合わせて光熱水費についても削減していく。

歳入	22年度決算額	― 千円	歳出	22年度決算額	605,092 千円
	23年度予算額	― 千円		23年度予算額	703,394 千円
	24年度見積額	― 千円		24年度見積額	805,000 千円

【財務局評価】

5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか

○ 都は従来からのCO_2排出量削減に向けた、街路灯の省エネ照明への転換の取組により、CO_2排出量の削減と経費削減に一定の成果を上げている。

○ 今後の電力需給の見通しが不透明であることも踏まえ、電力使用量削減の観点から、早期に効果を発現することが重要である。

6 24年度予算で、どのように対応したか

拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他

○ 局案どおり予算を計上する。

歳入	24年度予算額	― 千円
歳出	24年度予算額	805,000 千円